
なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。(バトル編前編)

神技

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。（バトル編前編）

【Nコード】

N38750

【作者名】

神技

【あらすじ】

なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。（前編）の続きなり。

(前書き)

続きなのら

「みゅー　まずはかるーく10人からいつてみよー」

司会者がそう言うと、10人の男がフィールドにやって来た。
体型はゴリマ　チヨから細マ　チヨ、イケメン、ガリガリと様々である。

「気を付ける、あのメイド服の女は雷魔法の使い手だ」

「なんとか魔法を避けて魔力切れになった所を一斉攻撃で倒そう！」

「……ちよつと待って、て」

「オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

「……はあ……」

何かを忠告しようとした男を無視して円陣を組み、雄々（おお）しく雄叫びを上げる。

「気合い万全だねー　それではー試合開始だよー」

ピー

「まずは手始めに　”指閃”^{しせん}」

”指閃”とは、簡単に言うと人差し指から細い雷のレーザーを放つ魔法だ。

チッ

「熱っ」

陽子が放ったレーザーはリーダー格のゴリマ チヨな男の頬を掠めた。

「……今のは少し油断しただけだ」

「次は無いかもしれませんが気を付けて下さいよ」

「おう」

「余所見するな！ 次が来るぞ！！」

男達が構える。

「指閃・乱^{らん}」

”指閃・乱”は”指閃”の応用版で、全ての指から雷のレーザーを一齐に連続で放つ魔法だ。
指の角度によってレーザーの進攻方向が変わる。

「うお！？」

「ぐっ……」

「ふん」

「たりやりやりやりやりや……」

「がああああつ！！」

「ジム！？ ぐあつ！？」

「楽勝楽sy：おっと」

「……ふっ」

「ヒヤッハ！ 弾幕には弾幕で対抗だアアアア！！」

「むう……」

男達はレーザーの弾幕を辛うじて避けたり、少し掠めたり、身体

を揺らすだけで避けたり、高速で殴ったり蹴ったりして消したり、避けきれずに直撃して倒れたり、仲間を気にかけたが為に動きを止めて喰らってしまったり、余裕振って当たりそうになったり、己の能力ですり抜けたり、弾幕で対抗したり、弾幕が一切来なくて寂しかったりしていた。

ちなみに、陽子は……

[illegible]

……”
超”
笑っていた。

「ぐう……かなり喰らっちゃったがそこまでダメージにはなっていない。お前ら大丈夫か？」

「はい」

ひん

「うん！」

「**楽勝だぜ**」

$$\vdots$$

「ヒヤッハ！　こんくねー大丈夫だよ！！」

「むっ……」

「ぐふつ…」

ガクツ
...

「ジム！？ ジイイイイイイイイイイム！！」

ジム、戦闘不能。
残り9人。

「……惜しい仲間を亡くしたな」
「いや、まだ死んで無いから」

みよん…

「……む？」

みよん…みよん…

「何だ？ この音は？」

みよみよん…

「んー…何かが跳ね返るような音だね」

みよみよん…みよみよん…

「……どんどん速くなつてきてねーか？」

みよみよみよん…みよみよみよん…みよみよみよん…

「……来るぞ。 構えろ！！」

9人がゴクリと唾を飲んだ瞬間…

みよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよ
みよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよ
みよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよ
みよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよ
みよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよ

[illegible]

なんと、さっきまで陽子が放ち続けていたレーザーの弾幕が全て壁や床を跳ね返りながら尋常ではない速さで此方に向かってきていたのだ。

「なん…だと…」

この絶望的な光景を見た9人は思わずハモってしまった。

「お、お前ら…こ、こここ、こんなに恐怖をかか、感じてる場合じゃねねねねえよ…」

「そそ、そうですよね…」

「怖い…けど、頑張る」

「ヒヤハハ、面白くなってきたぜぜぜぜぜぜい…」

「ジムの仇…」

「ここからは各自の生存を考える。全員死ぬな!…」

「……いくぞ」

その掛け声と同時に、男達は走り出した。

↓1時間後↓

「ぐうう…」

「あ、ああ…」

「い、嫌だ…死にたくないよ…」

「ヒヤ、ハ…ハ…」

「ジム…すま…ん…」

「俺は…死ぬ、のか…?」

「くっ……」
「……う」

フィールドには完全に無傷の陽子と、黒焦げになった9人の男達が横たわっていた。

レーザーの弾幕は既に消えている。

全員、身体のおちこちを貫かれたのでフィールドは血塗れである。中には血だけではなく、様々な内蔵がはみ出ていたり、飛び散っていたりとこれ以上描写すると18禁になりかねないグロテスクなことになる。

……正直、吐きそうだ。

「ふふふふふ」

……そんな地獄絵図を見ても笑っていられる陽子は怖すぎる。そして、この地獄絵図を作った魔法の名を誰に言っまでもなく言い放ってフィールドから降りていった。

「指閃・跳オミツ」

「陽子がフィールドをグロテスクに汚してしまったので、連続バトルを中断して掃除中」

「みゅー やっぱり陽子さんは強いね」

みゅー？

あれ？

もしかしてボク視点？

みゅ

恥ずかし

ん

じゃ

ボクの自己紹介をしてあげるよ

ボクはディスカだよ

え？

アンシエじゃないの？

違うよ

ボクはアンシエと似て非なる存在なんだよ

性別も違うし

髪と服の色もアンシエはピンクなのに対しボクはパープルだし

口癖も若干違うんだよ

まあ眼の色は同じ蒼なだけだね

え？

アンシエの眼の色は明るいグリーンじゃないの？

ん

あれはねカラコンなんだよ

明るく見えるように着けてるんだよ

でもね

ホントはボクと同じ眼の色なのが気に入らないみたいなんだよ

え？

何でアンシエは蒼い眼が気に入らないの？

それはね

おおっと

そろそろバトルが再開されるみたいだから司会の仕事しなくちや

それでは

またね

「掃除が終わってバトル再開」

ナレックスだ。

フィールドが掃除されている間にちょっと家に帰っていた。

……何をしていたかはノーコメントだ。

まあ、言わなくともわかるだろうな。

「みゆ」 それでは「連続バトル再開だよ」！！ 次は20人「逝つてみよ」

「漢字違う!？」

1人の細い男が司会者につ込んだが、無視された。

ピー

「つて、いきなりかよ!？」

そしてバトルは、ブザーだけで何の掛け声もなく始まった。

「さつきは時間掛けすぎちゃったから 一気にいくよ」

「えっ!？」

「”雷波”
らいは”」

前方に雷の波を放つ魔法。

5/1で麻痺らせる。

「うお!？」

「きゃあ！」

「シビビビビビビビビビ…」×10

運が悪く、10人ほど麻痺した。

「くっ…」

「痛くないわ」

「それはそうよ　だってそれ　ポ　モンの”電磁波”とほぼ同じだもん」

ポ　モンを知らない奴はいないだろう。
いい例だ。

もし、知らない奴がいたら調べろ。

「続いて　”雷鎖縛”」

雷で創られた鎖を複数放ち、相手を捕縛して一切の動きを封じる技。

少しでも触れたら麻痺する。

「シビビビビビビビビビビビビビビ…」×19

「くっ…」　”土砂使い”の私まで痺れそう…」

「じゃあ　痺れちゃえ」

さらに鎖を放つ。それにより、サンボ　スターに名前が似ている能力を持つ女がグルグル巻になった。

……熟鬼な女である。

「があああああああああああああああああああああああああ

ああああああ！！！！

「これで終わりね ” 雷塊・極大 ” × 5 」

前方に雷の塊を放つ魔法。

だが、今回は上空から落とすようだ。

大きさは極大・大・中・小・極小とある。

ちなみに、極大はかの ” 元 玉 ” の2倍くらいの大きさである。

……それを5つも放つたら小さい星なら滅亡してしまうのではないか？

ドツツゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオ……ン……

フィールドが吹き飛んだ。

「……………」 × 20

「ふう すつきりした 」

……陽子以外全員戦闘不能。

まあ、20人共麻痺して身動きが取れない所にあんな馬鹿でかい魔法を5つも叩き込まれたら大抵こつなるだろう……

「フィールドが吹き飛んだくらいで一々直していたら埒が飽かないので、引き続きバトル開始」

観客には陽子の笑顔が鬼に見えたらしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3875o/>

なんとなく短編書きたくなったから書いてみた。(バトル編前編)

2010年10月21日04時23分発行